

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第5号）の送付について

このことについて、下記のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願
いします。

記

情報の内容 **クロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)
の初確認について**

対象作物 ナス

1 発生経過

- (1) 令和3年6月、今治市内の施設ナス圃場において、ナスの葉・果実に寄生するコナカイ
ガラムシ類が確認された（写真1、2）。神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、県内では未発生
のクロテンコナカイガラムシと確認された。
- (2) 7月上旬までに周囲の雑草及び近隣の施設ナス圃場において発生状況を調査したが、寄
生は確認されなかった。

2 他県の発生状況

平成21年に沖縄県（スイゼンジナ、ヒマワリ）での発生が確認（Tanaka and Uesato, 2012）
されており、その後、各府県から発表された病害虫発生予察情報によると、佐賀県（ナス）、
福岡県（ミニトマト、ナス）、愛知県（食用トレニア、食用金魚草）、山口県（トマト）、高
知県（ナス）、鹿児島県（ミニトマト）、大阪府（ナス）、奈良県（ホウレンソウ）、長崎県
（ナス）、京都（トマト）で発生が確認されている。

3 形態

雌成虫は翅を欠き、体形は楕円形。体長は通常3~4.2mm程度であり、大きい個体は5mmを超
える。背面に白色のロウ質物を分泌し、全体としては白く見えるが、ロウ質物は皿中央部で薄く
なるため、肉眼で観察すると一見2対の黒斑があるように見える（写真3）。

4 生態

成虫はワタ状のロウ質物の卵のう内に平均で350個程度産卵する。繁殖様式は、交尾後産卵す
る有性生殖と雌成虫が交尾せずに産卵する単為生殖の両方が知られている。卵の多くは雌成虫
の体内でふ化するため、卵のう内の個体の多くはふ化幼虫（1齢幼虫）である。1齢幼虫は数
日間卵のう内で過ごした後、摂食のために歩いて分散する。雌では2齢、3齢幼虫を経て成虫
となる。雄では2齢幼虫の終わりに繭を作り、前蛹、蛹を経て羽化し、1対の翅を持つ成虫と
なる。本種の単為生殖個体群における1世代の発育期間は平均70日程度である。

5 被害の特徴

寄主植物の葉、葉柄、茎、花芽及び果実に寄生する。吸汁により寄主植物を衰弱させる他、
分泌した甘露（糖分を多く含む排泄物）が植物体表面のすす病菌を繁殖させる。

6 防除対策

- (1) 令和3年7月現在、本種に対する登録農薬は無い。
- (2) 発生を確認した場合は、寄生部位を除去し適正に処分し、栽培終了時には近隣の寄主作物へ本種が移動しないように、残さを速やかに処分する。
- (3) キク科雑草やスベリヒユ等の野外の雑草にも寄生するため、圃場及び周辺の除草対策を徹底する。

7 参考文献

最近話題となっている病害虫 (2016) 植物防疫所病害虫情報 108号

H. Tanaka, T. Uesato (2012) New records of some potential pest mealybugs

(Hemiptera:Coccoidea: Pseudococcidae) in Japan. Appl. Entomol. Zool. (2012)



写真1 葉への寄生状況

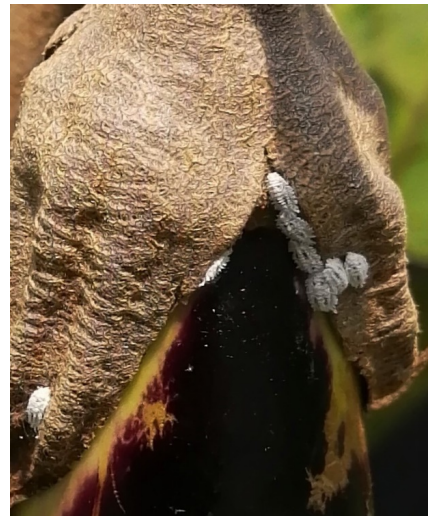


写真2 果実への寄生状況

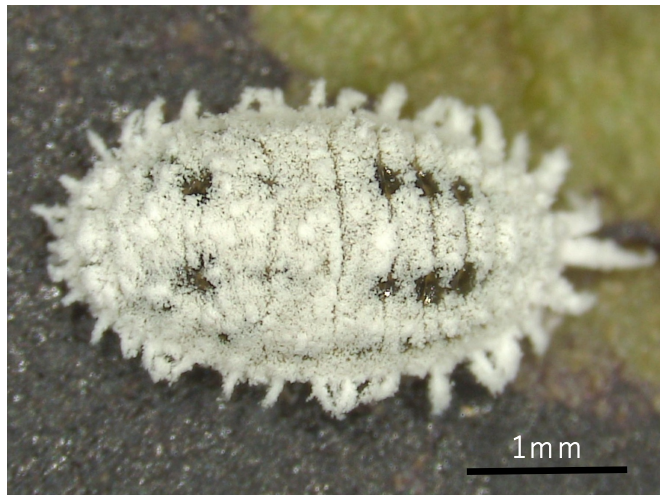


写真3 クロテンコナカイガラムシ雌成虫